受苦日　知っておきたいキリスト教のことば　(94)



受苦日とは、復活日（イースター）の前の金曜日のことです。例えば 2027 年は復活日が 3 月 28 日（日）ですから、受苦日は 3 月 26 日（金）となります。

イエス様はエルサレムで逮捕され、裁判にかけられ、そして死刑の判決を受けられました。その後十字架を背負ってゴルゴタの丘を登り、十字架につけられます。十字架上で息を引き取られたイエス様は墓に葬られ、その三日後の「週の初めの日（日曜日）」に墓から復活されました。

ユダヤの日の数え方では、金曜日の三日後が日曜日となります。したがってこの「受苦日」は、イエス様が十字架につけられたことを記念する日なのです。

日本聖公会では「受苦日」と呼びますが、「聖金曜日」や「聖大金曜日」、「Good Friday」という言い方もされます。「受苦」という言葉と、英語の「Good」とは随分違うように思いますが、イエス様の十字架がわたしたちにとっては「善い」ものになったのだということを考えさせられます。

この日には、特別な礼拝や祈りのときをもつ教会が多くあります。例えばマルコ福音書の記述にあわせて、イエス様が十字架で苦しまれた昼の 12 時から 15 時まで礼拝をする教会があります。また、イエス様が十字架上で発せられた七つの聖語に耳を傾け、黙想の時を持つ教会もあります。

また、イエス様の苦しみを思い起こしながら、断食をするという方もおられることでしょう。

京都教区の中の教会でも、伝道区ごとや教会単位の「受苦日礼拝」をささげているところが多くあります。ぜひ一度、足を運んでみてください。

次回は「受難」です。お楽しみに。